

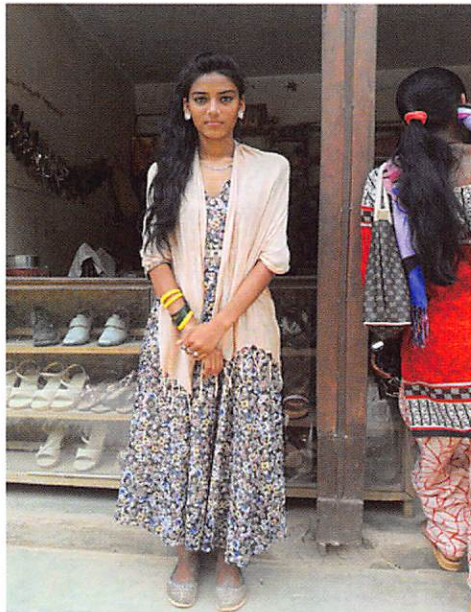


NPO法人篠山ナマステ会通信

2017(H29)年
10月1日発行

No. 1
(通巻No.33)

教育支援プロジェクトで 地域力の向上を！



クマリ・トランゲさん



シュリジャナ・ミジャールさん

2017年度の 奨学生決まる！ 篠山ナマステ会基金

ネパールでは、2015年に新憲法が施行されました。2016年6月には教育基本法が改正され学校制度が整理されました。その結果、教育課程は基礎教育8年(1-8年)、中等教育4年(9-12年)に区分され、基礎教育が無償義務教育とされました。中等教育修了試験は12年生時に実施することとなりました。(外務省HPより)

また、今年に入り地方選挙が実施され、新しい行政の仕組みが整いつつあり、紆余曲折はあるものの民主化が進みつつあります。

「篠山ナマステ会基金」で支援する奨学生も決定しました。

(詳細は次ページ)

学年	男子	女子	合計
6	2	4	6
7	4	7	11
8	8	8	16
9	5	10	15
10	5	6	11
11	7	6	13
12	9	9	18
計	40	50	90

セ小卒業生で中等学校に学んでいる生徒数
(セ小卒業生のみ 2017/5 現在)

学年	女子	男子	合計
1	11	11	22
2	7	6	13
3	7	4	11
4	5	1	6
5	5	5	10
計	35	27	62

■セティデビ小学校児童数 (2017/5/ 現在) ■

SSS・Laxmi Paudyal 通信



問1：ネパール地震の復興状況はどうなっていますか？

私たちがマハデプスタン地域のガハテや他の村の地震からの復興について心配をしています。政府は第1回の50,000ルピーを支給しましたが、村人はタイムリーに自分たちの家を建てていません。0.02%の村人が家を建てましたが、まだの人たちはひき続き自治体事務所に要請を行っています。

問2：篠山ナマステ会が支援している奨学金の奨学生を決めましたか？

(1ページに写真)

- ① 学生名：クマリ・トランゲさん
学校名：サルバマンガラ高校
学 年：11学年
- ② 学生名：シュリジャナ・ミジャーールさん
学校名：デディツムカ高校
学 年：11学年

問3：マハデプスタン地域の地方選挙結果はどうなりましたか？

ガハテ村に生まれ、ガハテ村で育ったシット・バハドゥール・タマン氏がマンダン・デュプール自治体ワードNo.9の首長に選出されました。シット氏はセティディビ小の学校運営委員長を長く務めた人です。



今年度2018年1月のネパールスタディツアーの計画に感謝します。私たちは篠山ナマステ会のみなさんを歓迎致します。

元通信員 ネパール氏も故郷で行政のトップに当選

2017. 7

私は、生まれ故郷のマンダン・デュプール自治体のワードNo.10の首長に選出されました。

ナマステ会のみなさんに、私の心からの「ナマステ」と好意をお伝え下さい。



ネパールでは6つの地方選挙が6月に、1つの地方選挙は9月の最終週に実施されました。

私のことをお知らせしましょう、私の仕事は以前よりも難しいと言ったことはありません、選挙前はそこでファシリテーター(ソシアルワーカー)をしていました。今は政府の行政ファシリテーターとして働いています。以前より少し忙しくなりました。

私の村に事務所があり、毎日そこへ行かなくてはなりません。私たちのワードNo.10は人口およそ5,000人です。

ネパールの教育制度改革について情報を提供します。いくつかは計画中であり、いくつかは既にネパール政府によって実行されています。

1. SLCを受験する資格を含むネパール政府の教育制度改革計画について

○現在、ネパール政府は2つの学校水準の枠組みを考えています。一つは基礎教育学校(1から8学年)、もう一つは中等教育学校(9から12学年)です。政府は中等教育水準(12学年)について、自由な教育を提供することによってその向上を計画しています。現在11及び12学年

の学生たちは学校へお金を支払っております。

○政府は中等教育水準（12学年）を向上させるため、学校を地方行政に委譲することを計画で、現在、政府は地方行政組織に対するいくつかの権限と責任を準備しています。又、地方行政組織への学校委譲のための法律も作成中です。法律が完成すれば、この制度は地方行政組織によって完全に推進されることになるでしょう。

○ネパールでは現在、全ての郡に郡教育事務所があります。教育事務所は地方行政への支援と連携によって、全郡レベルの教育制度を運用しています。

○教育制度改革以前は、SLCは一つの資格基準であり、それは中等教育水準を修了したことを表すものでした。現在政府はSLC試験制度の是非を検討しており、以前に既にSLC水準を修得した人に対してはSLC資格認定を与えています。

2. カブレ郡(セティディビ小、ラダ・クリシユナ小中校、ウマ・サハ校、デディ・ツムカ校、その他の学校を含む)に於けるこれらの教育改革の進展状況について

○カブレ郡も他の郡と同様に教育改革を進めています。

○私たちの新しい自治体マンダン・デュプールは学校に対して技術的、経営的なサポートを提供してきました。カブレ郡教育事務所

所と政府は自治体を通して学校に対する支援と連携を提供しています。

○マンダン・デュプール自治体は、よりよく学校を運営するために、規則と仕組みを作る試みをしてきました。セティディビ小、ラダ・クリシユナ校、ウマ・サハ校、デディ・ツムカ校は通常通り運営されています。

○私たちの郡のいくつかの学校では既に他の学校と統合したところがあります。児童生徒数が減った場合、学校は最も近い他の学校と統合します。児童生徒数は固定していません。それはその学校が立地する位置と状況次第なのです。

私は自治体の行動的で責任感ある職員です。私たちの地域の学校、とりわけセティディビ校、ウマ・サハ校、デディ・ツムカ校、ラダ・クリシユナ校などがより良い経営をできるよう、試みております。

皆さんが情報を必要とするならば、私はそれを準備できます、どうぞご遠慮なく。

私は2018年1月20日〜27日のネパールスタディツアーのこと大変を嬉しく思っています。何らかのサポートが必要ならば、その準備をしましょう。そしてツアーの皆さんとお会いし、一緒に行動することを楽しみにしております。

2017. 10

ビジュニユ・マニ・ネパール

天国の国クローチアへようこそ

2017. 4.3

定期総会後の記念講演は「国際交流を考える・在大阪クローチア共和国名誉領事館及びNPO法人日本クローチア交流協会の活動について」と題し、同名名誉領事・小島 弘氏と同領事秘書・山崎エレナ氏の話をお聴きしました。

国際交流は、相互の歴史や文化に対する関心から始まり、交流を続ける中でお互いに尊敬の念が生まれ、同じ人間として心が繋がっていく、そのような一人一人の喜びと充実した体験に支えられているのだということを学びました。

山崎エレナさんがクローチアの自然や歴史等に誇りを持って、それらを伝えようとする姿に私たちは国際交流の原点を見る思いが致しました。





**2018年1月20日
~27日に
ツアーを計画
しています。**

ネパールスタディツアー

- **ねらい**
- ① 人づくり、村づくりの現状把握
- ② 今後の支援のあり方協議
- ③ 新交流先パタン市の小中学校訪問
- ④ 震災からの復興状況視察

「たんば農文塾」は私たちにとってなぜ原点なのか？

☆岩村昇先生がネパールから帰国後、国際支援活動を目指す「PHD運動」(Peace平和とHealth健康を担うHuman Development人づくり)を提唱されたとき、この理念にいち早く賛同して多紀郡(当時)の志ある人々が篠山市後川新田にアジアからの農業研修生を迎え入れる研修道場を設立しました(昭和57(1982)年)。「農」は「文化」であるとの考えに基づき、この道場は「たんば農文塾」と命名されました。PHD運動はこの篠山の地でスタートしたのです。

- ☆この国際支援活動の最も大切な在り方として岩村先生と共に次のことを確かめました。
 - ・この支援活動はアジア(当初ネパール)の人々の自助努力をサポートするものであり、お金や物を中心とした効率的でスマートな支援する外国人の考え方を現地の人々に決して押しつけるものであってはならないこと、
 - ・現地の人々の考え方を尊重し、その上に立って「P平和とH健康を担うD人づくり」を支援していくものであること、

☆NPO法人篠山ナマステ会は、この考え方をネパールとの支援・交流活動の原点として、岩村先生が提唱された理念:「共に生きる」を掲げて、現在も活動に取り組んでいます。



NPO法人
篠山ナマステ会

■事務局
〒669-2221
篠山市西古佐21

■振替口座
00930-6-29629

私たちは組織強化のため、特定非営利活動法人から認定非営利活動法人を目指しており、賛助会員の拡大をしたいと考えています。賛助会員を紹介してください。

なお、賛助会員は本会からの様々な情報を受け取ることや、総会・記念講演等に出席できません。但し、総会で議決に参加することはできません。

■会員を紹介してください

- 新入会者紹介**
- 正会員
前川 奈美(篠山市)
- 賛助会員
山田 義一郎(福知山市)
大槻 和江(福知山市)
岸本 希(東京都)

(敬称略)